

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 田原 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにしていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

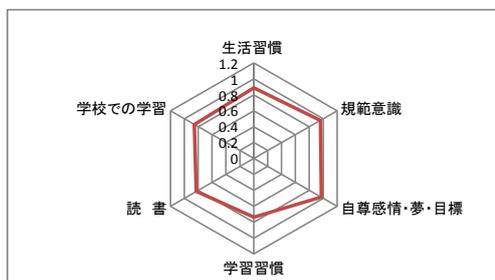
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・話す力、聞く力が不足しており、全体的に全国平均を下回っていた。 ・漢字の読み書きの問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	古典で、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題の正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・書くことに苦手意識があり、全体的に全国平均を下回っていた。 ・文章の構成を捉えたり、文章を要約したりする問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて必要な情報を読み取る問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	文章をもとにして、自分の考えを記述する問題の正答率が低かった。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	・どの領域も、全体的に全国平均を下回っていた。 ・基礎的な計算や作図については、ある程度身についている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	証明の必要性と意味を理解する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	一次方程式を解く問題、比例式を作る問題の正答率が低かった。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均は下回っているが、正答率の高い問題もあった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	情報を的確に処理したり説明したりする問題では、全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	資料をもとに説明する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が、高い規範意識を持っており、落ち着いた学校生活を送っていることがわかる。しかし、規則正しい生活ができていない生徒も増えてきており、注意が必要である。 ・自分の夢を持っていたり、自尊感情をしっかりと持っていたりする生徒の割合が低くなっている。 ・学習に対する意欲が低いので、学習習慣をつけさせる必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ○すべての授業において、めあてカード・まとめカードを引き続き使用していく。 ○漢字、基礎計算、英単語など基礎学力の向上を目指して、各コンクールを実施していく。 ○定期考査の前に学習時間を取り、テストに対して努力していく習慣を身につけさせる。 ○全学年で、アクティブラーニングを取り入れた授業づくりを行っていく。そのために教科内での授業の交互参観を行う。 ○1年生では、「これだけはテスト」を定期的に行い、基礎学力の定着を図る。 ○教科ごとに工夫して取り組み(理科ノートコンテスト、英文暗唱テスト、天声人語の書き写し)等を行う。 ○書くことを習慣化させるため、行事が終わるごとに感想文を書かせるようにする。 ○教員の指導力向上に努めるために、授業研究や指導主事要請を積極的に行い、授業改善に努める。 ○過去の問題や、校長会作成の課題プリントを授業の中や宿題として課す。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の知識習得を目的とした週末課題を実施し、週明けに授業の中で課題テストを実施する。 ○家庭学習チャレンジハンドブックを活用し、家庭学習の目標を決め、計画を立てさせ家庭学習の習慣化に努める。 ○冬休みと春休みにアシストシートや過去問を宿題として課す。 ○学校便りやホームページで全国学力学習状況調査について保護者に周知し、家庭と連携して協力体制を整える。 ○小中連携の取り組みで、新入生に春休みの課題を中学校から与え、入学後確認テストを行い、中学校の学習につなげていく。
--